

●2016年キルギス日本語教育春季セミナー

(2016年3月27日, キルギス共和国: ビシケク)

報告者: 西條結人 (ビシケク人文大学, 主催者)

2016年3月27日に「2016年キルギス日本語教育春季セミナー」がビシケク人文大学で開催された。本セミナーは、キルギス共和国日本語教師会(会員数33名)とビシケク人文大学東洋国際関係学部の共催である。キルギス共和国日本語教師会は、1999年に発足した任意団体で、国内高等教育機関、初等・中等教育機関、そして民間言語センター他の日本語教師やJICA青年海外協力隊ボランティア(日本語教育、青少年活動)が活動に参加している。2015年8月には、日本国外務大臣表彰(団体)を受賞している。

キルギス共和国日本語教師会は、日本語教育セミナーを毎年春と夏の年2回企画、実施している。国内交通網の未整備や教員所得の低さ、研究活動費の獲得が困難であることなどの問題から、年間を通した首都ビシケクと地方の日本語教師の交流機会が限られており、日本語教育セミナーでも毎回多くの参加は望めないというのが現状である。しかし、そのような状況にもかかわらず、今回の春季セミナーには、オシュ市やナリン市、カラコル市近郊地区などの地方都市で活動する日本語教師や、ビシケク市内の大学院生も参加し、総勢35名が受講した。

本セミナーは、「基調講演」「日本語教育事情・実践報告」「研究発表」の三部構成で行われた。第一部の「基調講演」には、鳴門教育大学の幾田伸司氏(国語科教育学)を講師として招聘し、「言語教育と教員養成—国語と外国語」というテーマでご講演いただいた。第二部では「日本語教育事情・実践報告」をテーマとし、オシュ国立大学、イシククリ州立ジュティオグス子ども教育センター、キルギス共和国日本人材開発センターの各機関の教師が、学習状況や使用教材、日頃の実践で工夫しているところを報告し、質疑応答では経験共有に有意義な討議が行われた。また、教授歴が2,3年の若手教師に対して、教授経験豊富な教師から自身の実践経験に基づくアドバイスや指導方法の紹介も行われた。第三部の「研究発表」では、合計4本の発表があった。漢字構造をどのように記述し応用するかという発表や、動画制作を取り入れた日本語授業の実践研究、高等教育機関における初級日本語教科書の分析、キルギスの初等・中等機関におけるキルギス語及びロシア語教育(母語教育)の現状と課題についての発表が行われた。

本セミナーのように、国内の日本語教師が一堂に会し、研究発表や実践報告によって互いに意見交流を行う事業の開催は、さらなる研鑽への動機付けとなるとともに、キルギスのみならず、中央アジアの日本語教育の発展に貢献するものであると思われる。

次回の日本語教育セミナーは2016年8月下旬に開催する予定である。詳細については、キルギス共和国日本語教師会のホームページ(<https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR/>)を参照されたい。